

意外と知らない歯科知識

治療の本質を見極め、「健口」を目指す

医療機器は常に進化し、人々の暮らしの中に大きな変化をもたらします。今年に入ってから歯周病の医療機器が初めて承認されたと発表されました。その内容について赤木先生に話を聞きました。

この先生に聞きました!



赤木 啓院長
 歯学博士。1984年赤木歯科開設。39年前からインプラント治療を行う。米インプラント学会アソシエイトフェロー、日本口腔インプラント学会認定専門医・指導医。歯科医師臨床研修指導医。再生医療認可施設。

日本で承認された歯周病治療機器

「先生のごこには、青色レーザーあるんか？」これは、新たな歯周病治療機器が開発されたというニュースを見て、来院された患者さんの第一声です。東北大発のベンチャー企業が開発した歯周病の医療機器が、世界で初めて日本で承認されたことがマスコミで取り上げられ、テレビでも放映されました。正確な情報が入ってきていませので、医療機器として判断しづらのですが、世界で初めて承認されたという点には、私も正直驚きました。

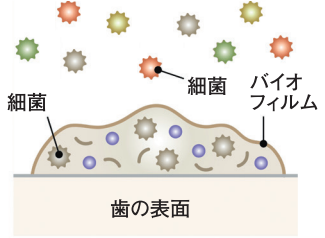
おそらく多くの歯科医療従事者も私と同じく、詳しい情報はほとんど持ち合わせていないかもしれません。大切なことが何も伝えられていないことが残念です。わかっていることと言えば、この機器が医療承認されたのは今のところ日本国内のみの話で、海外では承認を得ていないということです。

何事も本質を見て対応することが大切

すでに医療機器として保険治療で歯周病治療が認められたレーザーはあります。日本において医療機器を使用した治療で保険を適用するためには、使用する医療機器は厚生労働省の認可が必要です。保険治療で使用できるレーザーだけでなく、保険適用外のレーザーは海外で多くの治療に日常的に使われています。多くのレーザーが世界中で医療機器の承認を得ています。覚えておいてほしいことは、どのレーザーを使用しても歯周病菌を一時殺菌することができても、長期間の歯周病治療効果は得られないということです。歯周病の根本的な原因を知り、日常生活で予防することが大切です。

口腔ケアは基本が大切

歯周病の原因は色々挙げられますが、主たる原因は歯周病菌であることは間違いありません。例えば、生ごみを放置しておくとかバエが発生します。殺虫スプレーで対処したとしても、生ごみを放置すれば同じことの繰り返しです。歯周病治療はこれに似ています。極論を言えば毎日「口」を殺菌する必要があります。元となる「生ごみ」を残さないようにすること、以前にも繰り返し述べさせてきました。歯垢は



「生ごみ」を残さないようにすること、以前にも繰り返し述べさせてきました。歯垢は

